

事務事業名	狂犬病予防対策事業		所属部局	市民部		単位番号	4116								
			所属課室	環境課		課長名	深澤 政樹								
			所属担当	環境保全担当		担当者名	花輪 俊明								
基本政策	基本計画体系	20	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目				
		33	快適生活環境の整備	01	一般	0	4	0	1	0	5	0	6	0	0
政策			生活環境の保全	事業区分	☒ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金										
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度) ~ 年度)			法令根拠	狂犬病予防法										
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 狂犬病予防法に基づき実施している。また、同時に正しい犬のしつけ方教室等も行い、適正飼育を呼び掛けている。			事業費の主な内訳 (22年度)											
				項目(細節)			金額(千円)			項目(細節)			金額(千円)		
				消耗品費			375			印刷製本費			42		
				手数料			66			その他委託料			63		
				会場借上料			0								
										計			546		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	犬の登録申請による鑑札の交付、予防注射接種による注射済票の交付、犬のしつけ方教室の実施。
22年度活動実績	登録申請による鑑札交付、予防注射接種による注射済票交付、未接種犬を調査しお知らせ通知の発送・電話での予防注射のお願い、犬のしつけ方教室開催。
23年度活動予定	
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
犬の所有者、飼犬	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	犬が適正飼養、予防接種頭数、登録頭数が確実となり、未接種犬の数が明らかに なるため接種率の向上につながる。
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
狂犬病の発生を防ぐことで生活環境の保全につながる。	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 新規登録頭数	頭
イ 注射済票交付頭数	頭
ウ	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 犬の登録頭数	頭
イ	
ウ	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 予防注射の接種率	%
イ	
ウ	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 狂犬病発症件数	件
イ	

(2) 事業費・指標の推移

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円	479	546	502	440	440	440	
			一般財源	千円							
	事業費計 (A)			千円	479	546	502	440	440	440	0
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	240	240	240	240	240	240	240	
		人件費計 (B)	千円	1,071	1,071	951	951	951	951	951	0
		(A) + (B)			千円	1,550	1,617	1,453	1,391	1,391	1,391
活動指標			ア	頭	277.0	297.0	300.0	300.0	300.0	300.0	
			イ	頭	3,860.0	3,783.0	4,000.0	4,000.0	4,000.0	4,000.0	
			ウ								
対象指標			ア	頭	4,929.0	4,608.0	4,500.0	4,500.0	4,500.0	4,500.0	
			イ								
			ウ								
成果指標			ア	%	78.0	82.0	80.0	80.0	80.0	80.0	
			イ								
			ウ								
上位成果指標			ア	件	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			イ								

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成25年狂犬病予防法の施行に基づき、狂犬病の発生及び万延を防止し、公衆衛生の向上に資するため開始された。
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	日本では、狂犬病の発生はないため、狂犬病に対する認識が低いように思える。南アルプス市の予防注射接種率も80%を下回っているため23年度は80%を上回る目標とする。
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	予防注射の効率性及び接種率の向上を図るためにも、対象犬が少ない会場の接種時間を縮小し、対象犬が多い会場は二分する必要があるのではないかと獣医師より意見が出た。

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている 【内容!】 ☐ 取り組みしていない 【理由!】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	死亡や転出時の届出をしない飼養者がいるため、接種率に影響が出ている。お知らせハガキを含めた広報、CATV、チラシ等で周知を徹底した。
H 22年度に実施した改革改善の内容	お知らせハガキ、広報、CATV、チラシ等で周知を徹底した。

事務事業名	狂犬病予防対策事業	所属部	市民部	所属課	環境課
-------	-----------	-----	-----	-----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 公衆衛生の向上に資する観点から、施策に結びついている。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 狂犬病予防法に基づき実施しているので、妥当である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】 狂犬病を予防し、生活環境の保全を維持するためにも、適切である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ 向上余地がある 【理由↓】 ☐ 向上余地がない 【理由↓】 各集合注射会場の接種頭数の実績で少ない頭数の会場は、接種時間を短縮し逆に多い地区は会場を二分し、接種率の向上を目指す。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☒ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 野犬等保護捕獲事業、犬の飼い方について、所有者のマナー啓発は連携が可能である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 狂犬病のまん延が阻止できなくなる。	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない 【理由↓】 狂犬病予防法で義務付けられている。
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 事業に係るコストは100%犬の飼い主の手数料でまかなっており必要最小限のものである。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 成果の向上を目指すためには、削減余地はない。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 市内犬の登録者全部に予防注射の日程通知を送付しており、事業費も手数料でまかなっているため公平・公正と思われる。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	本事業は野犬・逸走犬の捕獲・管理と共通点があるため、基本的には、野犬等保護捕獲事業と統合すべきと考える。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性、 、 の結果) ☒ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性、 、 の結果) ☒ 成果向上(有効性 の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性、 の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☒</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☒	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☒	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について 歳出予算の統一化。																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 集合注射会場の統合(会場の削減)で注射を行い、飼い主の理解を得る。		(5) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果																						
		コスト削減優先度評価結果																						